

令和4年 3月 2日

【令和3年度 ビネスパーソン向けセミナー 資料】

【データから読み解く地域経済動向】

< ~withコロナからpostコロナにむけて~ >

和歌山県企画部企画政策局調査統計課 主 幹 永尾 吉賞
一般財団法人 和歌山社会経済研究所 研究員 藤本 迪也

はじめに・・・（私の仕事）

□ 主に、和歌山県の経済に関係する仕事をやっています。

- **県民経済計算**（最新：令和元年度がまもなく公表されます。）
1年間における、県内の生産活動によって新たに生み出された財・サービスの付加価値額（GDP）の合計を測定しているもの。
- **市町村民経済計算**（最新：令和元年度がまもなく公表されます。）
県民経済計算の市町村版で、各市町村のGDPを計算しているものであるが、支出系列は推計資料の不足から存在していない。
- **産業連関表**（最新：平成27年表）
1年間に県内において行われた様々な産業相互間の取引関係を一つの表にまとめたもので、財・サービスの流れの全貌を把握することが出来るもの。（各種係数は、経済波及効果の測定に利用される。）
- **鉱工業生産指数**（最新：令和3年12月）
鉱工業の生産動向の水準を把握することを目的として、月々の鉱工業生産活動にかかる数量を、ある一定時期を基準にして指数化したもの。

○ 景気動向指数（最新：令和3年11月）

様々な経済活動における、重要かつ美観な指標の動きを合成して作成される総合的な景気指標。

（C IとD Iが存在するが、現在の主流はC I。 米国方式）

<参考：他の統計で、景気の動向を表しているもの>

企業短期経済観測調査（短観） 【日本銀行】

法人企業景気予測調査 【財務省】

景気ウォッチャー 【内閣府】

景気動向調査 【和歌山社会経済研究所】

関西圏でも、各シンクタンクや銀行などが独自に状況を発表。

○ 和歌山県の経済（最新：令和2年）

前年の経済動向を生産・雇用・消費などの様々な経済指標から捉え、景気の方角性や量感などを明らかにするとともに、本県の景気局面を把握・分析することを目的に、定性的な情報を加えて解説したもの。

（経済計算では2年遅れの情報になるため、前年の状況を捉える目的で実施）

○ 月例経済報告 ※非公表

- ・ 月例経済報告 ～統計情報編～

はじめに・・・（私の仕事）

□ 主に、和歌山県の県内景気調査に関する仕事を行っています

○ **景気動向調査**（年4回）

県内2,000社を対象に、景況感や売上高の変動を調査。トピックとして「コロナ禍の影響」、「脱炭素の取組」などを質問しており、県内景況感だけでなく、県内企業の今後の動きについて把握を行っている。

○ **月例経済指標分析**（毎月）

百貨店・スーパー販売額、新車販売台数、公共工事請負金額などについて、月次の動きを分析。県内経済のトレンドを把握

○ **県内経営実態調査**（和歌山県受託事業）

県内3,000社を対象に売上高・営業利益などの業績動向を調査
トピックとして「価格転嫁状況」、「IT活用状況」などを質問し
県内企業の経営実態を把握

コロナ禍の経済動向を振り返る（withコロナ）

～新型コロナウイルス感染症（covid-19）が大きく影響を与えた、
2020年度の日本経済・地域経済（和歌山県経済）の状況～

地域の経済動向を読み解く その前に・・・

○経済の捉え方や物事を捉えていくためのプロセス

○経済データの見方や経済分野を見ていくうえでのポイント

○経済・社会を読み解くうえでの基礎知識

経済の捉え方について

●需要発生主義

経済はあくまで、需要発生主義であることを念頭においておくこと。

(企業などの生産活動から経済循環が始まるのではない。)

意外と自分が思っているように、経済は動かない。

例：円安になったから、いきなり好調になっているのでは？といったようなもの。

○経済活動の分類について

<経済動向を各分野別に分類>

○消費 (家計の動向になるが、企業動向から逆側面で推し量る)

○投資 (個人・企業)

○企業活動 (各産業別の動向。起業・倒産状況なども含む)

○労働・雇用 (賃金や生活保護の動向などを含む)

○金融 (個人・企業)

○公的機関活動 (国・県・市町村等の、政府支出による各種の投資 など)

物事を捉えていくためのプロセス

実態（真実）をどう把握していくのか 実態把握の手法

実態って・・・（数字の裏にある真実や本当のところ）

マクロとミクロと現実 → そのどこかに、実態はあるはず！

1. 題材に対する情報収集
2. 自分なりの仮設立てを行い、それを検証していくためのデータ収集
3. データの分析 → 当たりをつける
4. 現実を捉えるフィールドワーク
（現場確認と関係者のヒアリング、アンケート調査など）
5. ディスカッション
（収集情報と分析したデータなどを、関係者と協議）
6. 総合的な判断を行い、取りまとめる

→ 関係者の皆さんのコンセンサスが得られたラインが、ほぼ真実や実態

※皆の意見が一致した水準→ 言われてみればそんなものかも知れないと皆が
違和感なく、受け入れられる水準

データの集め方

様々な統計情報（データ）の所在について

まずは、政府の統計（公的統計）

官公庁の統計関係データ（各機関が出している「年次の報告書」「白書」などを含む）

総務省他、各省庁などの官公庁関係

※過去からのデータが同じ定義で蓄積されていて、信頼性が担保されており、長いスパンでの変化や比較が確認出来る。 → マクロでの状況把握

- 政府統計の総合窓口として[**e-Stat**（政府統計のポータルサイト）]があるため、各省庁の代表的な統計は、ほぼ網羅されたデータが閲覧出来る。
- **社会人口統計体系（SSDS）**が、各種統計を体系的にまとめてくれているものであるため、政府統計関連を包括的に見る参考になる。（既に、一人当たりなど、指標化されたデータや、その基礎データや出所なども掲載されていることから利用しやすい。）

様々な統計情報（データ）の所在について 続き

- 日銀の各種統計も非常に重要。

（さくらレポート以外でも、「金融経済月報」は参考になる。）

＜他の統計で、景気の動向を表しているもの＞

企業短期経済観測調査（短観） [日本銀行]

法人企業景気予測調査 [財務省]

景気ウォッチャー [内閣府]

景気動向調査 [和歌山社会経済研究所]

関西圏でも、各シンクタンクや銀行などが独自に状況を発表。

（参考）世界的な比較を見る場合

財務省や外務省関連の統計「貿易統計」「国際収支統計」などが一般的だが、やや日本に偏った見方がなされている部分もあるため、客観的に見るのであれば、以下の組織におけるデータベースから見るのが望ましい。

- IMF（国際通貨基金）

World Economic Outlookのデータなどは、各方面などで多く使用されている。

- OECD（経済協力開発機構）
- UN（国際連合）

などが代表的

経済統計の見方について

統計を見るうえでの注意点・ポイントなど

※統計は、比較と時系列（トレンド）が重要。

（より解りやすくするためにデータの視覚化も重要。視覚データ（グラフデータなど）として再編集を行うことで、より解りやすく明確なものになる。
→ 説明もしやすい。）

○実数と指数

○名目と実質

○原数値と季節調整値

○数量ベースと金額ベース

○水準とトレンド

[各統計情報（特に、月次のもの）は、トレンドを重視。]

- 特に、月次で公表されているような統計数値は、水準値としての扱いで、あくまで目安として考える。
- 地方統計では、標本客体数が少ないことから、出ている数値にあまり固執し過ぎないほうがよく、数値をベースに考えていくと歪みが生じる恐れが高い。

※世の中の各分野を見るポイント

[一方向からだけを見て判断しないこと]

世の中は密接に絡み合っていることから、一方から見た場合と逆側面から見た場合、また季節やその年の状況などを考慮した場合といった形で、様々な方向から各分野を推し量っていく。（そのデータの信頼性が担保されます。）

（例）

- 支払った側と受け取った側

企業は給料を〇〇円払った → 働いている人は〇〇円貰った。

- 去年の冬と今年の冬は違う？

今はコロナ禍でもあるし、去年とは状況が違いますよね。 といったこと。

統計情報の整理について

統計情報の指標化

比較するために、統計データを指標化する。

（この数値が動けば、他のより詳細なデータや実態では何かが起こっているというような、各状況を代表するような統計データを指標にする。）

各統計数値（指標）の見方について

（注意点）

単純に前月比や前年同月比だけで見るのではなく、**季節的な動き**や**特殊事象**などを考慮する必要性があり、加えて、今がいつ頃と同水準にあるのかに注意しておく必要性がある。また**季節変動の要因**と**景気変動の要因**のどちらが強く働いている状態なのかによって、使用する数値も使い分けるといったことが必要になる。



また、各統計の抽出数や、クセといったものをよく理解しておく必要性があり、この統計は絶対値を見たらいいのか、それともトレンドを見たらいいのか、また実数か指数かどちらを見るのが正しいのかと、色々な注意が必要になってくる。

※地方の統計数値（月次の都道府県データなど）を見る上でのポイント

[各統計情報は、トレンドを重視。]

経済・社会を考える上で必要若しくは、あった方が良くと思われる基本知識

- 人口構造
- 経済規模
- 産業構造
- 各企業の特徴

何をしている企業で展開している地域やその規模 など

- 世の中の動きと世界各国の動向 等



また、これらと併せ、和歌山県の県民性・地域性といった社会的な側面を考慮すること。（単なる、日本の一地方とは考えない。）→ 地域特性を重視

< 幅広い視野を持って、物事を考えましょう >

※データの味方におけるポイント

→ 比較とトレンドが基本

○水準とトレンド

その数値がどのあたりの水準にあって、過去からどう動いてきているのかといったところを掴むことが最も大切なポイント。